



特 251

161

倭笠縫邑靈址考證

倭笠縫邑顯彰會

奈良縣磯城郡織田村茅原

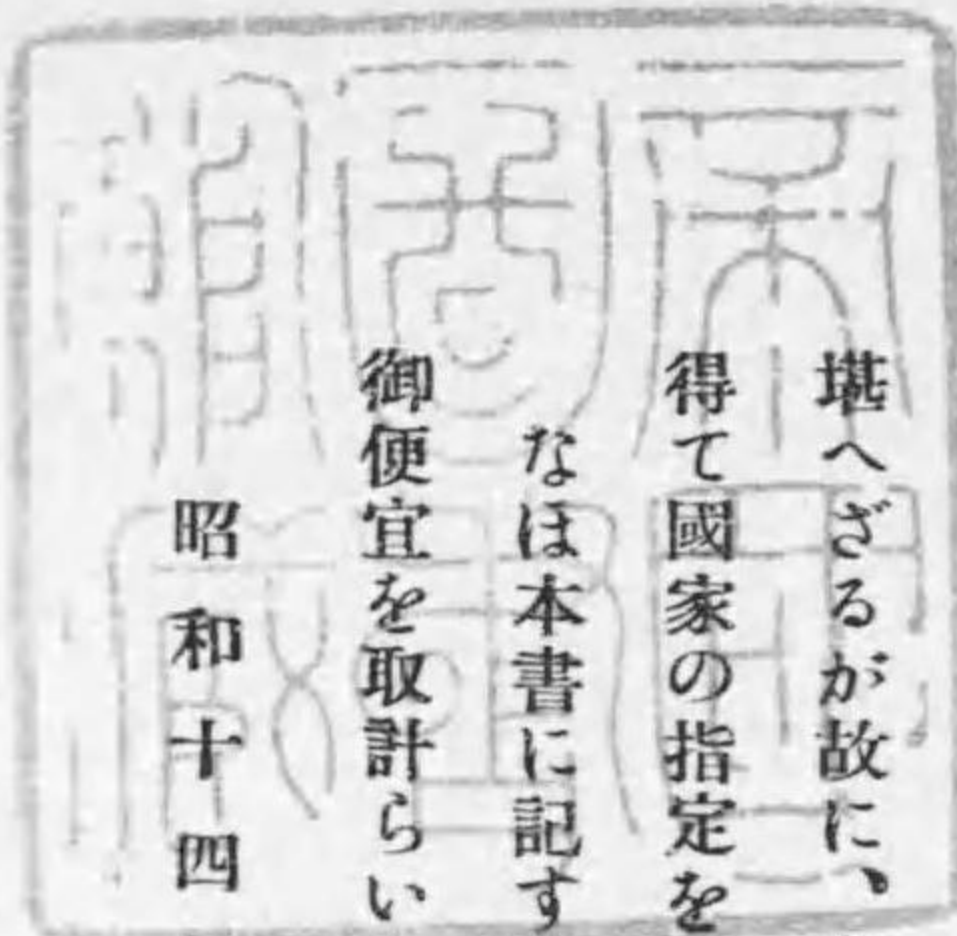
始



はしがき

奈良縣磯城郡三輪山西北麓の高原地に在る檜原神社境内並に附近一帯の地は、畏多くも 崇神天皇六年天照大神を倭笠縫邑内の一地に奉遷あらせられたる御遺蹟であることは、古來より口碑によつて傳へられ地方民の極めて崇敬する所である。我等會員幸にしてかゝる郷土に生を享け祖先以來二千年の久しきに亘り此尊き靈址を守り續けて來たが、土地大率民有地に分割せられあると地勢が餘りにも高燥にして、風光明媚なるが故に、今にして國家の指定を受けざる時は急激なる交通機關の發達に伴ひ、何等理解なき都人士の爲めに占有せられ遂に空しく世に埋没せらるに至る時期餘り遠きにあらざるかと思へば、誠に深憂に堪へざるが故に、茲に多年研究せる概要を記して廣く斯界の識者と同憂の人士に訴へ正しき輿論の支持を得て國家の指定を受け、永へに此尊き靈址を保存し顯彰せんことを切望する次第である。

なほ本書に記す所の責任は一切本會に於て負ふ所であつて、質問、實地踏査については出來得る限りの御便宜を取計らいたいと考へてゐる。



昭和十四年 月

奈良縣磯城郡織田村茅原

倭笠縫靈址顯彰會



挿入圖解説

第一圖ノ一 檜原之全景

圖中右端ニ見ユル人家ハ茅原村ノ一部ニシテ、左端丘上ハ「カンシヨ山」ニ相當ス

第一圖ノ二 檜原神社境内中央部

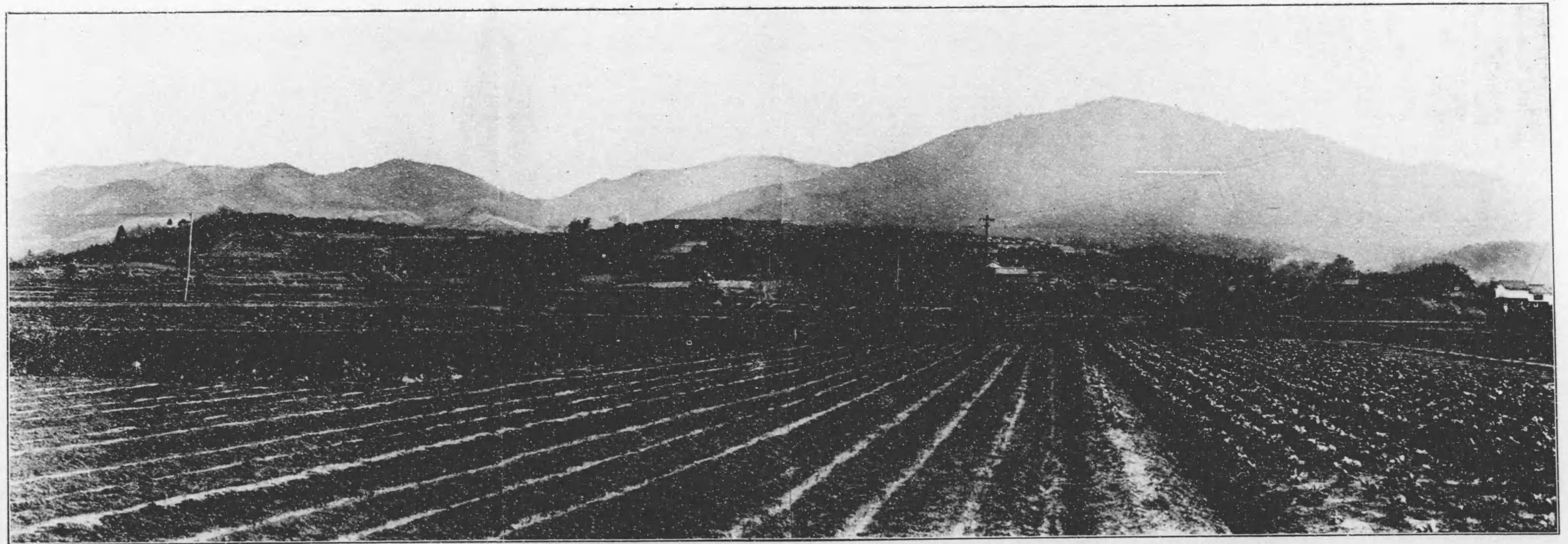
第二圖 三輪山附近見取リ圖

圖中檜原神社ハ特ニ「三輪古圖」ヨリテ「舊觀ヲ復原シタルモノ」ニシテ現狀ニハアラザルナリ

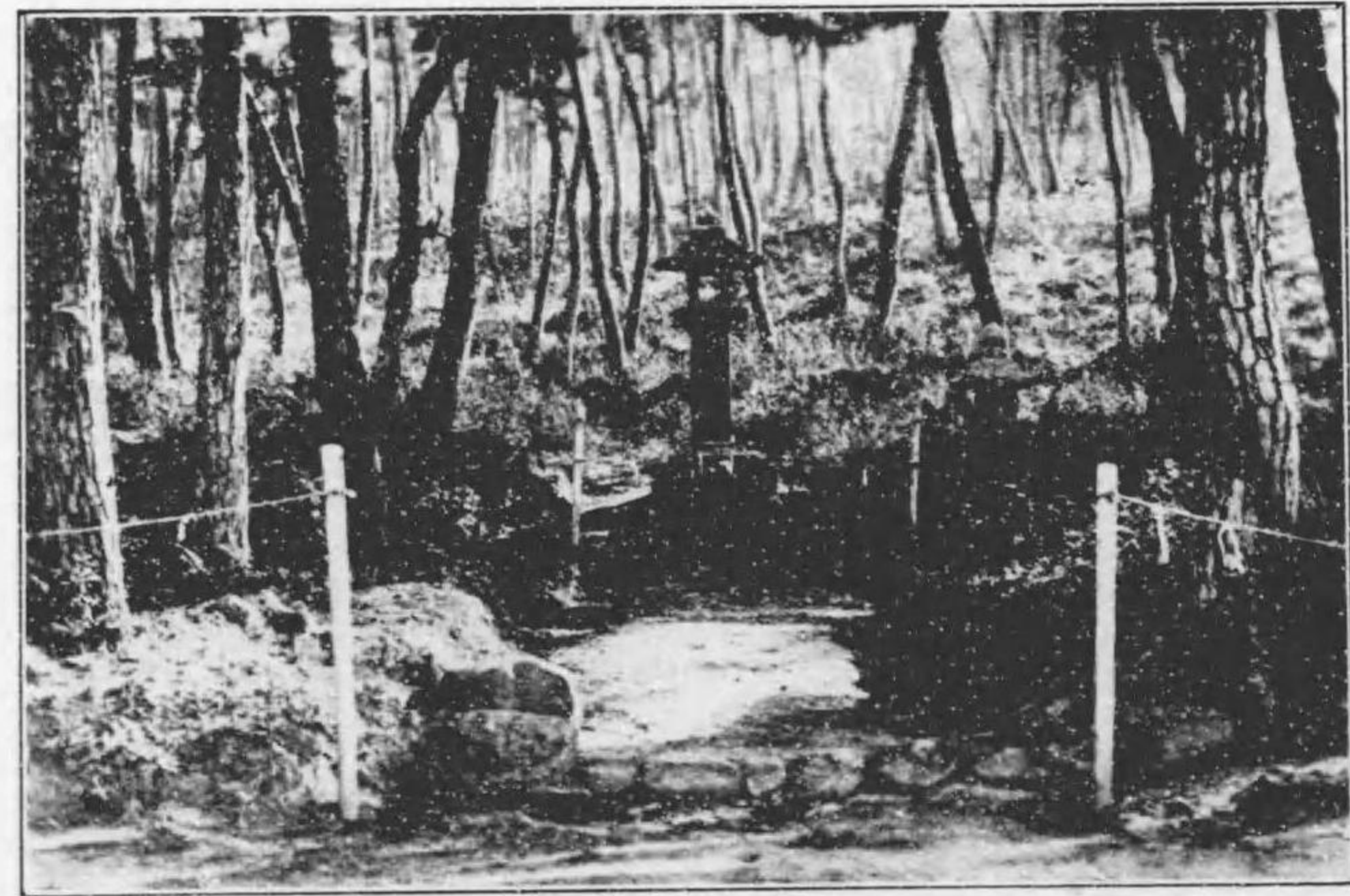
第三圖 檜原附近平面圖

第四圖 檜原神社境内平面圖

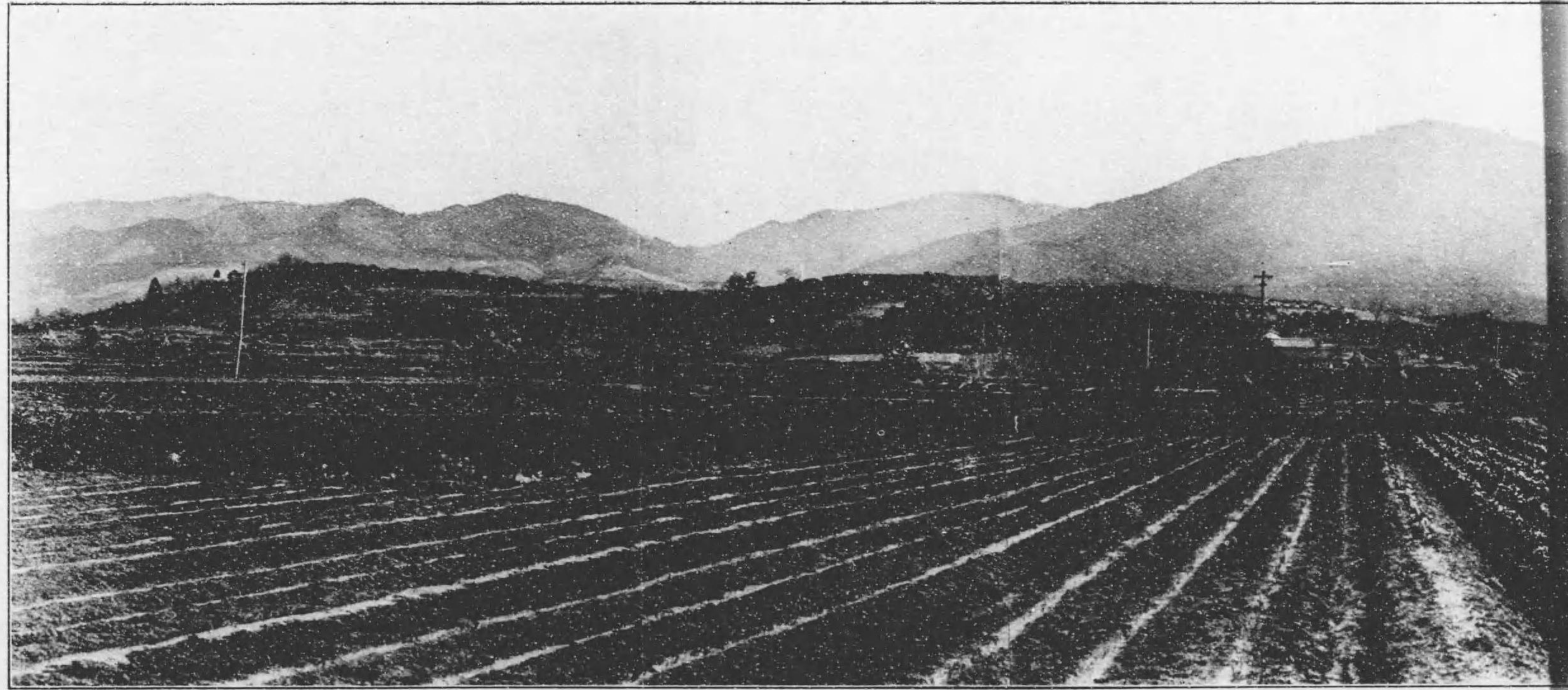
第五圖 笠縫靈址各傳説地々圖



第一圖



二ノ圖一第



一ノ圖一第

緒論

皇國正史ヲ繕テ稽フルニ、人皇第十代 崇神天皇ハ一面肇國ハツクニシラスメラヒコト 天皇トモ申シ奉リ、ソノ御治世ハ、ア
ダカモ 神武天皇御肇國ニモ比スベキ、上古中葉ニ於ケル日本社會中興整備ノ一大飛躍時ニ當リ居リシナ
リ。英聖文武良ク之ヲ遂行シ、皇國ヲシテ無窮ノ安キニ置カレタル天皇ニ對シ奉ル古來我國民ノ崇敬思慕
ノ念ハ、恰カモ 神武天皇ニ對シ奉ルソレト對比スベキモノアリシナルベク。是レ 崇神天皇ヲモ亦肇國
天皇ト申シ奉ル所以ナリト拜察セラレ、ナリ。而カモ、コノ 崇神天皇御代ニ於ケル日本國家ノ異常ナル
飛躍發展ハ、恰カモ現時我國家ノ迎ヘツ、アリ 又將ニ今後ニ於テ迎ヘントスルソレニ極メテ相似タルモ
ノアルヲ想フ時、同天皇ノ御仕業ミシヨヲ謹ミテ回顧シ奉リ、ソノ御遺蹟ヲ顯彰シ奉ルコト、又現下我國ニ於ケ
ル最大緊要事ニ外ナラザルナリ。

崇神天皇ハ我國家異常ノ整備發展ノ時期ニ於テ、其國是ヲ我國家傳統的ノ本義タル祭政ノ一致ニ執リ給
ヒ、大ニ神祇ヲ崇敬シ、天社國社ヲ定メ神地神戶ヲ進メラル、コノ敬神ノ御事蹟中ニ於テモ殊ニ倭笠縫邑
ヘノ神器御奉遷ハ最モ重要ナル國家的意義ヲ有セルモノナリト拜察セラレ、ナリ。

天祖 天照大神ノ御神勅中ニ在ル、神器ノ同殿等床ノ祭祀ハ、古ク祭政一致ノ具體的顯現トシテ實行セ
ラレ來リシヲ、今カク殿外別床ニ御奉遷遊バサル、ハ、一ハ以テ國民教化ノ統一強化ノタメ、他ハ以テ日

本國家組織ノ異常ナル膨脹ノタメノ記念スベキ大事業ナリシト申スベキモノナリ。爾來今日ニ至ルマデ歴聖コノ例ヲ遵守遊バサレ來リシナリ。

カク考フル時、コノ記念スベキ神器御奉遷ノ聖蹟笠縫邑址ノ顯彰ハ、時宜ニ最モ適シ、カツ最モ必要ナル國家的意義ヲ有スル緊急事ト稱スベキナリ。

考 證

神器奉遷聖蹟

「倭笠縫邑」真傳説地ニ就テ

一 史 實

日本書紀 卷第五 (崇神天皇紀)

崇神天皇六年條

(略前) 先是、天照大神倭大國魂二神、祭於天皇大殿之内、然畏其神勢、共住不_レ安故以_二天照大神託豐鍬入姬命、祭於倭笠縫邑、乃立磯堅城神籬_一。(略下)

トアル。コノ神器御奉遷ノ史實ハ、上古前期ニ於ケル日本國家ノ異常ナル膨脹ノ結果トシテノ 天皇ノ御祭祀ノ御様式ノ變革トシテ、祭政一致ノ我國史上ニ最モ重要ナル意義ヲ有スル事件デアリ、ソノ遺蹟コソハ永ク國民教化ノ聖蹟トシテ保存顯彰スベキ重要史蹟ニ外ナラナイ。

從來コノ「倭笠縫邑」(日本書紀、古語拾遺、倭姫命世記)ハ又「美和乃御諸原齋宮」(延暦皇代神宮儀式帳)「美和乃御諸宮」(延暦皇代神宮儀式帳)トモ呼バレテ居ツタモノト考ヘラレ、前者ハ崇神天皇時ニ於ケル固有地名ヲ指シ、後者ハ、ソレガ存在スル地ガ美和(三輪)ト汎稱セラレル地方デアツタタメニ之ヲ別ノ方面ヨリカク呼ビ更ヘタモノト考ヘラレルノデアアル。之ハアタカモ「倭姫命世記」ニ

五十八年辛巳(崇神天皇)遷倭禰和乃御室嶺上宮二年奉齋云々(據新訂增補國史大系本)

トアル。神器ガ再ビ遷幸セラレタデアルトコロノ「倭禰和乃御室嶺上宮」トモホソ同地(又ハ極メテ附近)ト考ヘラレ、要スルニ笠縫邑ト呼バレルトコロハ

一、大和國內ニ於ケル倭地方(舊式上式下郡)デアリ

二、カツ倭地方中ニ於テモ「美和」ト汎稱セラレル地方デアルトコトヲ要シ、シカモ諸種ノ事情ヨリ

考慮シテ

一、崇神天皇宮城(磯城瑞籬宮)ヨリモ外方ナルモ

二、シカモ皇女ノ御祭祀ト言ヒ、又「遷祭ノ夕、宮人皆參」(倭姫命世記、古語拾遺)ルコトヲ得タ宮城ヨリアマ

リ離レナイトコロデアリ

三、カツ、土地高燥大和教化ノ要ヨリ國內ニ於ケル眺望豁達ノ聖域デアツタト考ヘラレルノデアル。

奈良縣磯城郡三輪町檜原及織田村茅原並ニ芝、箸中ニ汎ル一帶ノ地ハ其傳説、地形、位置、史實ヨリ考ヘテ明カニ倭笠縫邑址デアリ、カツ一般史家ニヨツテモ多クカク考ヘラレテ居ル遺蹟デアル。

二 史實ト所在地トノ關係

(イ) 文献

本史蹟ニハ、文献的史料トシテ史實ト所在地ト直接連結スルモノハ比較的少イ様ニ考ヘラレルノデアルガ、シカシ「倭禰和乃御室嶺上宮」ト笠縫邑トハ名稱ニ相違ハ存スルケレドモ、元來同一ノ場所ヲ指スモノト考ヘラルノデ（詳細ハ「倭笠縫靈址諸説眞偽批判」上卷參照）コノ意味ニ於テハ、御巫清直「大神宮本記歸正抄」ニ「御室嶺上宮」ノコトヲ記シテ、

「文政十三年三月彼地ニ經歷セシ日、三輪神社ヨリ北ノ岨道ニ入り其地ニ詣テ拜覽セシニ、石垣ヲ築廻ラシテ其遺蹟ヲ存セリ。但シ嶺上宮トアレバ三諸山ノ頂ニアルベク誰モ思フベケレド然ラズ、北ノ山

峽ニ在ナリ、依テ按ズルニ嶺字ハ説文ニ山道也、廣韻ニ山坡也ナドアルヲ以テ、山ノ尾ノ上ト云意ニ用キタルナリ。」

トアリ。明カニ檜原社ノ地点ヲ神器奉遷地トシテ文政十三年ノ頃ニハ信ゼラレタ事實ヲ示シテキルノデアル。カツ神樂歌ニ「笠ノ淺茅原」トアルコトニヨツテ笠縫邑中ニ、小字トシテ淺茅原ト稱スル所ガ存シタト考ヘラレ（詳細ハ前掲書上下卷參照）コノ淺茅原ハ、日本書記卷第五ニヨレバ 崇神天皇七年二月十五日ニ 天皇幸シタマヒテ八十萬神ヲ會ヘト問シタマフタ神淺茅原及ビ同年八月七日大田々根子ヲ招見セラレタ神淺茅原デアリ、之ハ極メテ神聖ナ行事ヲ行ヒタマフニ適シ、且ツ諸王卿八十諸部等ヲ會セシメタマフニ便利ナ土地デアツタト考ヘラレ、從ツテ當時ノ皇居磯城瑞籬宮（現三輪町金屋）ヨリ近ク、カツ所謂御諸原ト呼バレル如キ廣豁ナ土地デアツタト考ヘラレルノデアル。コノ意味ニ於テ現在ノ織田村茅原ガ之ニ相當スルコトハ異論ノ存シナイトコロデアル。故ニコノ笠縫邑ハ必ズヤ現在ノ茅原ノ附近ニ需ムベキハ當然デアルノデアルガ、今日コノ名ヲ冠スル村落ガ殘ツテキナイ。シカシ幸ナコトニハ、後ニモ一寸述べル如ク、從來織田村芝ノ東端ヨリ茅原ノ西端ニカケテ「笠縫」ト呼ブ古名ガ存シテ居リ、之ヲ證明スル資料ニ明治九年大神神社ニ於テ制定シタ敬神講社ニコノ一帶ノ組名ヲソノ古來ノ名稱ニヨツテ笠縫組ト命名シ、コノ事實ヲ表明スル木札ガ今日ニ於テモ遺存シテキル。即チ次ニ掲ゲタ如キモノデアル。

大神神社
○敬神講社
第千四百拾壹號 笠縫組

天地 六寸八分
左右 三寸



又笠縫邑址ガ當所在地ナルコトヲ古來信ジツ、アツターノ文献的史料(實ハ金石文ナレド)ニ織田村大字芝纏向川岸ノ縣道東側ニハ一ノ自然石ニ上圖ノ如キ彫刻シタモノガ存在シテキル。「天照大神鎮座ノ地ハ東七町計リナル笠縫邑ニ在リ」トシテ、ソノ位置距離ヲ教ヘテキルノデア。年號ハ丁度石ガ變質硅岩デアルタメニ剝落シテ不明ダガ或ハ「享保カ」「天保カ」ト考ヘラレル。

建立者名モオソラク大神氏系ノ大神神社々家ノ一人デアラウカト思ハレルガ明カニ之ニ當ル人物ガ發見出來ナイ。シカシ何レニシテモ決シテ之ガ近年ノ偽物等デナイコトハ、ソノ書風磨滅狀態等ヨリ一見シテ明カデア。ル。

其他文献的資料トシテハヤ、新シイモノデアアルガ、ヤハリ當地方ニ笠縫邑ナル古名ヲ傳ヘテ來タコトヲ實證スルモノトシテ、明治四十年ノ信用組合定款ガ存在シテキル。

明治四十年一月五日設定
明治四十年二月六日設立許可
無限責任笠縫信用購買組合定款

之ハ即チ當織田村前名、岩田村ノ古名笠縫村ヲ明治初年復興セントシテ運動ガ存スル事實ト相對照シテ注意スベキ資料デア。ル。

(○) 口碑傳説

當所在地ニハ古來有力ナ傳説ガ存在シテキル。尤モ是等ハ大部分ハ、正史モシクハ古文献ト相適合スルモノデアリ、又極メテ合理的ニモ考ヘラレルモノデア。ル。

即チ崇神天皇六年神器御奉遷ノ地ハ、コノ皇居ノ所在地即チ現三輪町金屋ヨリ山麓ニ沿ヒテ、北方穴師兵主神社ニ至ル舊山邊道(上街道ノ古イモノ)(コノ南端ハツバ市ニ達ス「現金屋村落中程」ニ沿ヒテ大神神社地ヲ通ツテ北ニ進ミ、狹井神社前ヲ通り、玄賓谷ヲ横切ル道(現在歳旦繞道祭ノ折大神神社ノ神火ノ通行セラレル繞道)ニヨツテ達セラレル、三輪山山麓丘陵デアリ舊三輪山ノ一部デアアル檜原ノ丘陵上デアアルト稱セラレテキル。古來コノ檜原茅原附近ハ一帯ニ廣ク、笠縫邑ト呼バレテ居リ、ソノ中ニ淺茅原、日原ト呼バレル字名ヲ存シ、後淺茅原ハ茅原トナリ、日原ハ檜原ト改メラレ、笠縫邑ノ大名ハ却ツテ後ニハ僅カニ、舊笠縫邑ノ一角ニノミ殘存スルコト、ナツタモノト稱セラレテキル。又神器奉遷ノ局部即

チ神籬ノ在ツタ所ハ今日ノ檜原神社々地デアリ、檜原神社ハ神器ノ伊勢ヘノ御鎮坐後、ソノ宮地ヲ尊ビ保存シテ別ニ神殿ヲ設ケルコトナク、ソノ神殿所在地ヲ圍ンテ之ヲ崇拜シ、ヤハリ天照大神ヲ奉祠シテ今日ニ及ンデキルト稱セラレテキル。茅原ハヤハリ崇神天皇ノ時群臣ヲ會シ、又八十萬神ヲ請セラレタ地ト言ヒ、ソノ字名ニ神樂田、神樂橋ノ名ヲ存シテ神器御鎮坐時ノ神樂奉獻ノ遺蹟地ト傳ヘラレテキル。又附近ニハ豐嶽入姫命ノ御墓ト稱スル古墳墓ヲ有シ、皇女ト極メテ密接ナル關係ニ在ル地ナルコトヲ知ルノデアアル。

要スルニ聖蹟笠縫邑ハ、三輪町檜原ヨリ織田村茅原ニ汎ル地デアリ、ソノ中ニ於テ神器ノ御鎮坐アラセラレタノハ、特ニ檜原丘ノ檜原神社附近ト考ヘルコトハ疑ノ存シナイモノデアアル。

右ガ本問題ニ直接關係アル口碑傳説ノ大要デアアル。

(ハ)、推定説話

ナシ(但シ本史蹟ニハ、イヅレモ根據ヲ有スル傳説ノミニシテ單ナル推定説話ト考ヘラル、モノ、存在ヲ知ラズ)

(ニ)、遺蹟遺物

本史蹟ニハコノ笠縫邑址ニ直接或ハ間接ノ關係ヲ持ツ少カラザル遺蹟遺物が存在スルノデアアル。

先ヅ本丘陵西北ノ頂端、神上山(又環緒山)ト呼バレル附近ノ標高一三二、九米標識附近ニハ一帶ニ彌

生式土器ノ細片ガ散布シテキルノミナラズ、最近ニサヌカイト製薄肉銳利ナ石鏃、皮剝ガ發見セラレテ、石器時代ノ遺蹟デアアルコトガ實證セラレタ。シカシ、未ダ遺物包含層等ノ存否ハ確メラレナイ。又コノ丘陵麓デアアル茅原附近ノ一帶ニ田畠ノ中ニ彌生式土器ノ破片ガ散在シテ居リ、サヌカイト製ノ石鏃等ノ石器モ發見セラレルカラ、同地方ハ一帶ニ石器時代ノ遺物散布地トシテ、三輪山麓ノ各地ト同様ニ古代聚落ノ存シタ地帯デアアルコトガ知ラレル。

檜原丘陵ノ上ハ全體ニ土師器及ビ祝部土器ノ細片ガ地表ニ散布シテ居リ、全クノ祭祀用土製模造品ト考ヘラレル様ナ坏形、小埴形ノ赤褐色素焼ノ土器片ガ散在シテキル。中ニハ稀ニ赤褐色吸濕性ノ大ナル柄付盃(或ハ土杓子ト言フベキカ)ガ、檜原池附近ヨリ發見セラレ、又、大小ノ盤ハ相當多量ホ、完全ナ姿デアリ、丘陵上ノ各地ヨリ發見セラレテキル。此等ノ内大形ノモノ、内面ニハ一面ニ布目ガ印セラレタモノアリ、ソレ自體興味深イ資料デアアル。シカシ此等ノ中ニハ相當時代ガ下降シ、歴史時代ニ深ク入ルモノモアルト考ヘラレル。(此等ハ檜原神社ノ用器ト想ハレル)ナホ、檜原神社ノ建物ガカツテ存在シ、ソノ遺構ヲ殘シテキル附近ヨリハ多數ノ古瓦ガ發見セラレテキル。ソノ中ニハ鎌倉時代ニ遡リ得ルト考ヘラレル連點紋ノ唐草ヤ先ノ尖ツタ巴紋ヨリ成ル巴瓦ヲ始メ、ホ、徳川中期頃ニ至ル黑色堅質ノ瓦片ガ多數見得ラレ、又明カニ火災ニヨツテ燒ケテ瓦相互ガ熔着シタモノモ見得ラレル。之ハ「享保中大神社覺書」(三輪叢書百八十一頁)中ニ在ル。

檜原拜殿、表行五間、奥行貳間、屋根瓦、但鳥居有之ニ見ル拜殿等ノ瓦カト考ヘラレ、之ハ、享保十九年秋ニハ倒潰シタコトガ「三輪社書上」ニ見エテキルノデ、ソレマデハコノ種ノ瓦ヲ葺イタ拜殿ガ存シテ居ツタコトガ知り得ラレルノデアアル。

又現在檜原神社々地ニハ方形基壇、方形竿及火袋ヲ有スル花崗岩製ノ二基ノ石燈籠ガ存在シテキル。
正面ノモノニハ

檜原神社 岩田村 箸中村

ト刻銘ガソノ竿ノ正面ニ在リ、之ヨリヤ、南面ニ在ルモノニハ

檜原神社 元錄九丙子年四月吉日 喜多新八郎

ト云フ年號ト織田藩士ノ名トヲ刻レテアル。共ニ其彫刻ガ相類シテキルノデ、ホボ徳川中期頃ノモノト考ヘラレルノデアアル。

次ニ檜原神社地ニハ現在建物ハ存シナイガ、シカシ實測圖ニ見ルガ如キ石垣、石階、土地ヲ平ニシタ跡等ガ在ツテ此等ハイヅレモカッタ存在シタ建造物ノ遺構デアアルコトヲ示シテキル。

之ハアダカモ「三輪山古圖」ニ見ル足利中期頃ノ状態デアアル、(同古圖ハ文政十三年中川春瀾ガ三輪平等寺ノ古圖ヲ「三百年前之圖也」トシテ寫シタモノデアアル)中央ニ拜殿ヲ持チ、ソノ附近ニ堂舎ヲ有シ三輪鳥居ヲ立テタ檜原社ノ状態ト相對照シテ見ルベキモノデアアル。コノ場合、現在石垣ニヨツテ矩形ニ平坦ニ

造ラレテキル部分ハ拜殿ノ存シタトコロト考ヘラレルガ、古圖ニハ其ノ東側ニ木柵ヲメグラシ、カッタノ社殿ノ跡カ(モシソウデアアルトスレバコノ部分ガ神器ノ社祠即チ神籬ノ存在地デハナカラウカ)ト思ハレル一定ノ區域ガ存在シテキルノガウカハレルガ、之ノ部分ニ相當スルノガ即チ現在中央ニ燈籠ヲ立テ、キル地域デハナイカト考ヘラレルノデアアル。モシソウトスレバ、大神神社「社記」又ハ「社傳」ニ在ル檜原ノ祭神ハ中央ニ 天照若御魂神左ニ 伊弉諾尊右ニ 伊弉册尊ノ各々奉祠シタモノデアアルカラ、此地コソハ、カッタノ神器御鎮坐ノ局所ノ遺制デハナカラウカトノ推定ガ行ハレルノデアアル。

其他サスガ檜原丘陵上ニハ古墳ハ存在シテキナイガ、ソノ丘麓大字茅原ニハ狹穗姫命御墓ノ傳説デアアル王墓山古墳(帆立貝式周ニ湟アリ埴輪圓筒ヲメグラシ、琅玕曲玉等出土セリト傳フ民有地)大日堂脇古墳(圓墳美門南面ノ石廓露出鐵片出土セリト傳フ)大字箸中ニハ現在御陵墓デアアル倭迹々日百襲姫命御墓又豊歙入姫御墓ノ傳説アル「ホケノ山」古墳等ガ散在シテ居ツテ此地方ガ一帯ニ古代聚落地トシテ、スデニ上代ノ初期ヨリ相當榮エタモノデアアルコトガ推定セラレ、所謂笠縫邑ノ存在ハ此等ノ聚落ガ、笠縫部ニヨツテ營マレテ居ツタ、メニヨルモノデハナイカト想像セシメラレルノデアアル。

(木) 地理地形現狀

三輪町三輪字檜原ヲ中心トシ、織田村茅原ヲ含メル「笠縫邑址」ノ地勢ニツイテ、ソノ概要ヲ注意シテ見ルニ、先ツ此檜原丘陵ハ、第三紀ニ於ケル死火山デアアル三輪山ノ山麓ニ發達シタ一ノ山麓丘陵デアツテ

ソノ四邊、殊ニ西北麓ハ、扇狀地形ノ特色ヲ表現シテキル。高サハ約一三五米以下（比高約五十米以下）デアツテ、全體ニ山麓ヨリモソノ西端ノ方ガ幅ヲ増ス傾向ヲ有シ、ソノ中央ニハ西麓ヨリ古來一ノ淺イ凹部（谷ト云フ程デモナイガ廣義ノ谷デアアル）ガ入り込ンデ居ツタノヲ、織田藩移封時現在ノ檜原池ト稱スル二箇ノ貯水池ニ改メラレタノヲ除ケバ、ソノ上ハホゞ平坦ナ舌狀丘陵デアルト言フコトガ出來得ル。コノ四邊モ北側ヲ除ケハ、比較的緩ヤカニ傾斜シ、爲ニコノ丘陵ヘノ上下ハ極メテ自由デアリ、古來本丘陵ヲ横切ル交通路ガ存シタ点モ首肯出來得ルノデアアル。本丘陵ノ麓ニハ、スグ平坦ノ沖積平野ガ迫ツテ居リ、大字茅原ハコノ上ニ存スルノデアアル。丘陵部及ビ平野部ノ交會ハ極メテ鮮明デアアル。而シテ此ノ山麓ノ平野ハ徐徐ニ西ノ方ニ向テ傾斜シテ居リ、丘陵上ハ勿論大字茅原ニ於ケル排水ハ極メテ良好デアアル。本丘陵上ニハ檜原池ヨリ出ル小溪流ガ西流シテキルノミデアアルガ、ソノ北麓ニハ纏向川ガ、本丘陵ノ麓ヲ深ク流レテ相當急ナ崖ヲ造リ、四時纏向山ヨリ豊富ナ清流ヲ運ンデ其沿岸ニ水車業ガ發達サセテキル。南麓ニ於テハ、玄寶庵裏手ノ小瀑布ヨリ發スル三輪川ハ、古來ノ歴史物語ヲイマダニ傳ヘテ其流域ニ狹イ沖積平野ヲ造ツテキル。コノ末流ハ茅原ノ南側ヲ西流シ、茲ニ大字茅原ハ、檜原丘陵西麓纏向川、三輪川ニ狹マレタ平坦ナ地域ニ在ルト考ヘ得ラレルノデアアル。本丘陵ハ元來三輪山火山岩デアアル黒雲母安山岩ノ小塊及ビソレカ霏蘭ニヨツテ生ジタ紅黃色粘土ヨリ成ツテ居リ、ソノ乾燥固着性ガ強ク、流水ニヨル破壊作用ヲ蒙ルルコトガ少イ。

右ノ如キ地勢ヲ具スル「笠縫邑」傳説地ハ、丘陵上端ニ於テハ冬期ヤ、北風ヲ強ク受ケル以外ハ、極メテ通風採光良ク所謂聖地トシテ神器ノ奉遷モコノ地ナレバコソト考ヘラレル自然條件ヲ有スル地點デアルト云ヒ得ルノデアアル。

現在ハ丘陵上面ハ、檜原神社中ハ松林及ビ草地トナリ、僅カニ舊建造物ノ趾ト考ヘラレル地均シヲ行ツタ平坦地ト、舊拜殿址ト考ヘラレル石垣ニヨツテ築キ上ゲラレタ平坦部ガ存在シテキルノミデアアルガ、（石垣南北二十五間二尺 東西十五間二尺）他ハ池ヲ除ケバ、イヅレモ皆民有地畠トナリ、現在密柑、桑、茶等ノ栽培ガ行ハレテキル。シカシ之モ明治初年神社制度確立ノ折、本丘陵上部ガ舊大神神社社家ニ分割セラレナイ以前ハ、コノ檜原丘全體ハ現在ノ大神神社ト同シク、松及杉ノ森林ヲナシテ居リ、ソノ中ニ僅ニ檜原社地ト、ソレヘノ參道、舊山邊道ノ遺道デアアル繞道ネウダウミチガ存スルノミデアツタノデアアル。從ツテコノ聖域ノ現狀ハ約七十年前ニ始メテ作ラレタト稱シテ差支ヘナイノデアアル。次ニ大字茅原一帶ノ地ハ舊來久シク民有地トナリ、水田及ビ村落ガソノ上ニ營マレテキル。

三 現 狀 說 明

神器奉遷聖蹟「倭笠縫邑」傳説地デアアル三輪ノ檜原（日原）ハ、現在奈良縣磯城郡三輪町大字三輪字檜

原ニ屬シ大字三輪千二百五十一番地ヨリ千四百十七番地ニ亘ル部分ニ織田村大字茅原三百八十二番地ヨリ七百九十一番地及ビ同村大字箸中百二十番地ヨリ千八百八十三番地ニ亘ル地域ノ山林原野田畠池沼等ヲ含メル九萬九千三百餘坪ヲ指スノデアル。同地ハ三輪山ノアダカモ西北麓ニ當リ、三輪山ガソノ西南方ノ長谷川、西北方ノ纏向川ト共ニ三角形ノ地域ヲ劃スル(コレヲ古來水垣ノ内ト言ヒ、神聖視シテキル)コノ三角地帯ノ山麓ニ在ツテ西ニ半島狀ニ突出スル丘陵ノ北端ノモノニ相當シ、アダカモ之ハ 崇神天皇磯城瑞籬宮ノ存スル磯城縣主神社丘陵(現在天理教敷島大教會アリ)ト南北相對シテソノ山麓ヲ飾ルノデアル。磯城瑞籬宮址ヨリハホヽ正北直線ニ十五町(舊山邊道ニヨツテ實程約十八町)大神神社ヨリハ北方直線ニ九町(舊山邊道ニヨツテ實程約十町半)穴師兵主神社(日本大國魂神最初ノ御鎮坐地)ヨリハ南方八町(實程十町)ノ位置ニ位シテキル。從ツテ、スグソノ東南方ハ圓錐形ヲ具スル三輪山ノ千古ノ翠綠ニ對シ西ハ近ク纏向川ヲ距テ、遠ク大和平原ノ展開ヲ扣ヘ、畝傍、耳成、香久ノ大和三山ノ溫容、二上、葛城、金剛ノ所謂葛城山脈ノ蜿列ソノ前後ニ散在シ 皇靈天皇皇女倭迹々日百襲姬命御墓、ホケノ山古墳(豊鍬入姫命御墓傳説地)ソノ丘陵麓ニ點在シテ、大和トシテモ特ニ稀ニ見ル眺望絶佳、宏豁雄大ノ地デアルト言ハナケレバナラナイ。御諸原ト呼バレタノハ正シク此地デアラウトノ實感ヲ強ク抱カセラレルトコロデアル。

而シテ現在ノ三輪町檜原ハ舊 皇大神宮奉祀ノ名殘トシテ永ク 天照大神ヲ奉祀シテ來タ檜原神社(日

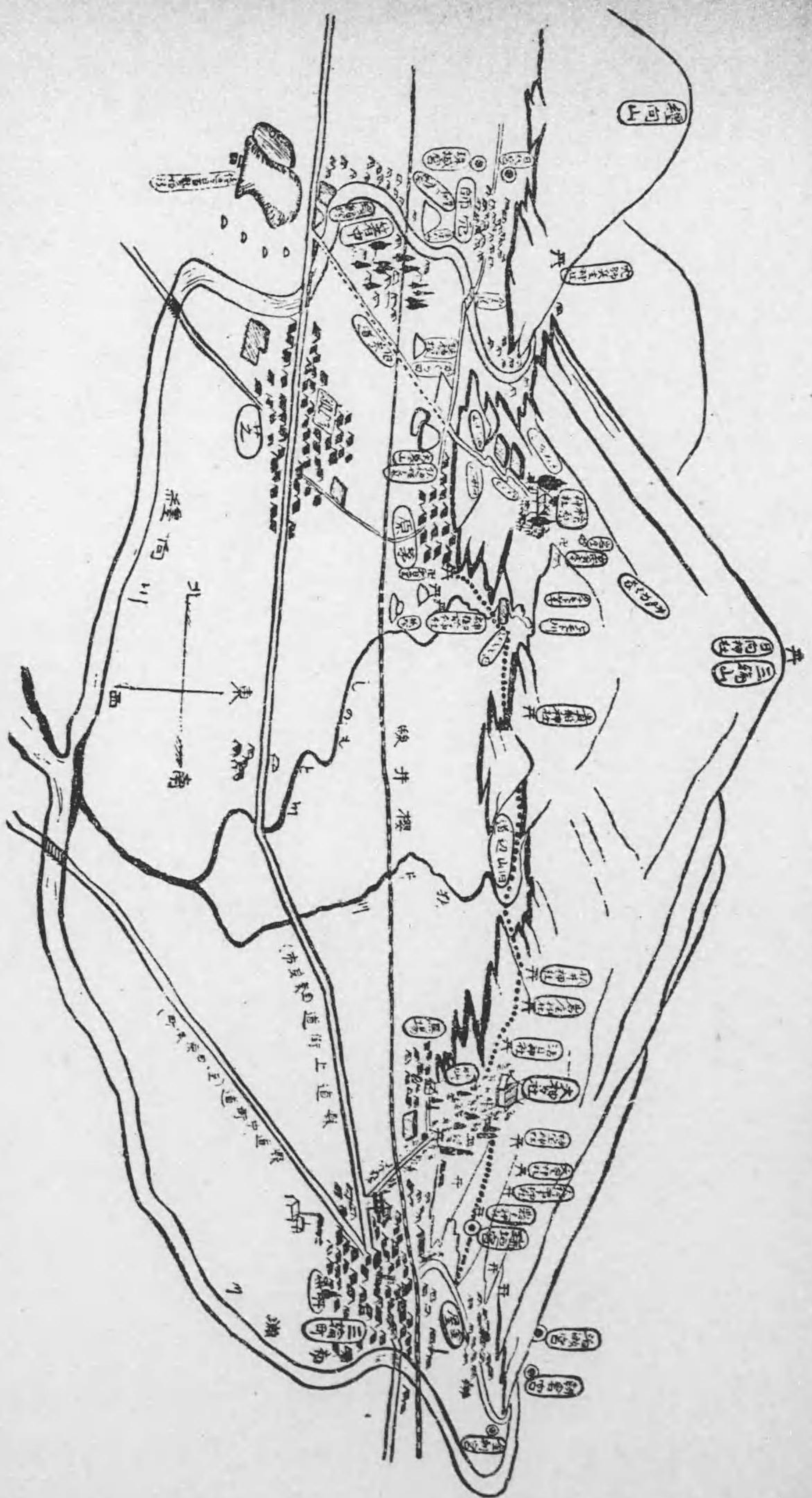
原神社)ガ存スル地デアルガ、之ハ古代ニ於テハ、單ニ所謂倭笠縫邑ノ神器奉齋ノ局部地點ヲ指スモノト考ヘラレ、ソノ西麓ニハ、所謂神淺茅原ノ遺蹟ト考ヘラレル磯城郡織田村大字茅原ガ存在シ、コノ附近ヨリ、織田村大字芝東半部(舊織田藩陣屋附近以東)ニカケテノ地方ヲ古來「笠縫」ト呼稱シ來リ、現ニ此事實ヲ示ス明治初年ノ大神神社敬神講社笠縫組ノ札ガ此地方ニ遺存シテ居リ、又織田藩移封時ノ村名「岩田村」ノ前名ヲ「笠縫村」ト稱シタル事實アリト傳ヘ、之ニヨツテ明治初年村命名ノ折、現村名「織田村」ト「笠縫村」トノ採否兩論相爭ツタ事實ヤ、明治四十年設立ノ同村信用組合ヲ「笠縫信用購買組合」ト稱シタ事實等ヨリ、單ニ今日ノコノ小字檜原ノ地域内ノミヲ嚴密ニ舊「笠縫邑」址ト限定シテ考ヘルコトハ出來難イノデアル。從ツテ本史蹟ノ位置ハ、先述ノ檜原丘陵ヲ中心トシテソノ附近一帶殊ニ茅原村ヲ含メルモノデアル點ヲ注意シナケレバナラマイ。

右ノ如キ現狀ニアル本遺蹟ハ、大率民有地トシテ分割所有セラレ、僅カニ檜原神社地ノミガ官有ニ屬スル狀態デアル。シカモ年々歳々人爲ノ破壞ハ各種ノ方法ニヨツテ加ヘラレ、又此地ガ我國史上無上ノ聖地ノ一タルコトヲ忘却センコト必ズシモ將來ニ無キヲ保セズ、此意味ニ於テ一日モ早ク當局ニ於テ本史蹟ヲ調査指定セラレン事ヲ切望スルモノデアル。

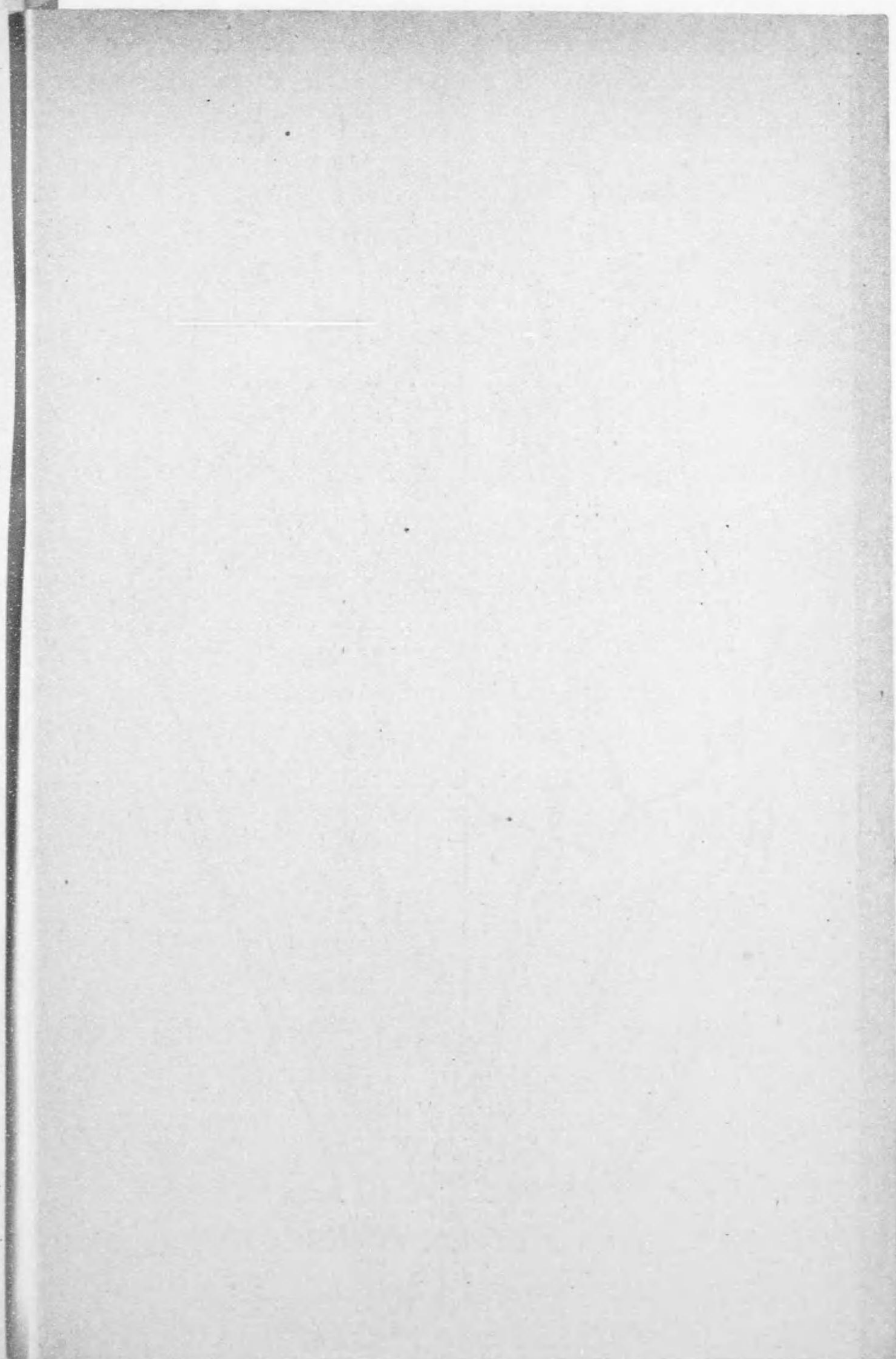
考證資料

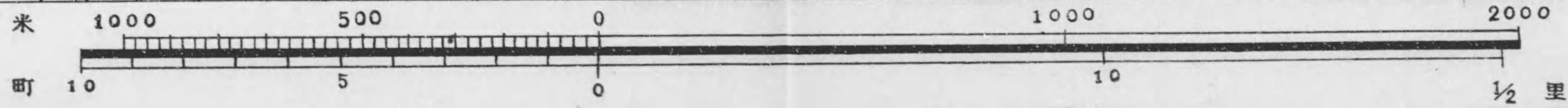
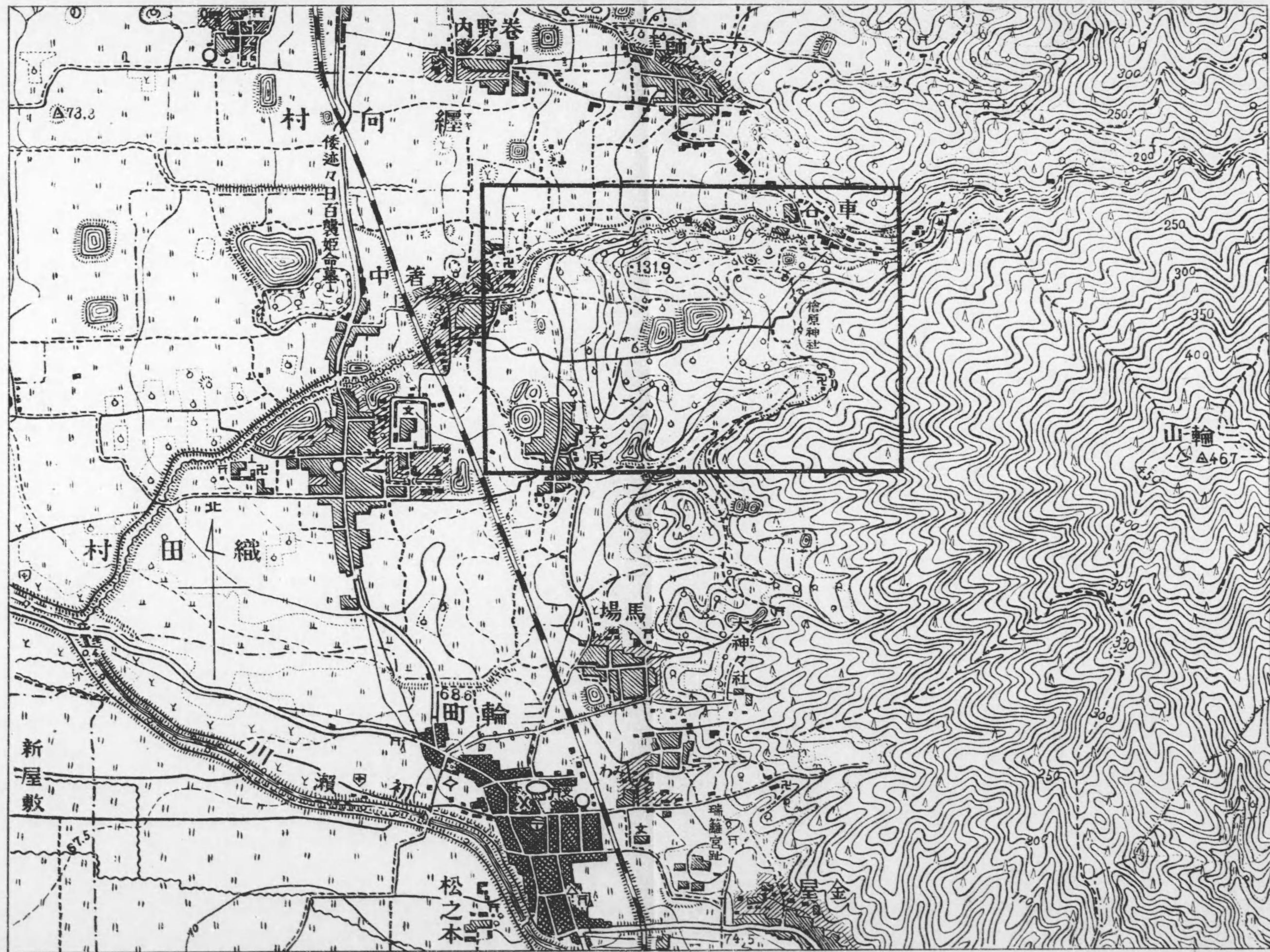
- 一、笠縫邑靈址附近地形圖
- 右、陸軍陸地測量部地形圖擴大
- 一、現檜原神社境內實測圖
- 一、現地寫真
- 一、杯形土器、柄付盃祭器等出土品
- 一、古瓦破片
- 一、敬神講社門札
- 一、標石
- 一、倭笠縫靈址諸說真偽批判
- 一、無限責任笠縫信用購買組合定款

數葉
 一葉
 數種
 拓本
 上下二冊
 一冊



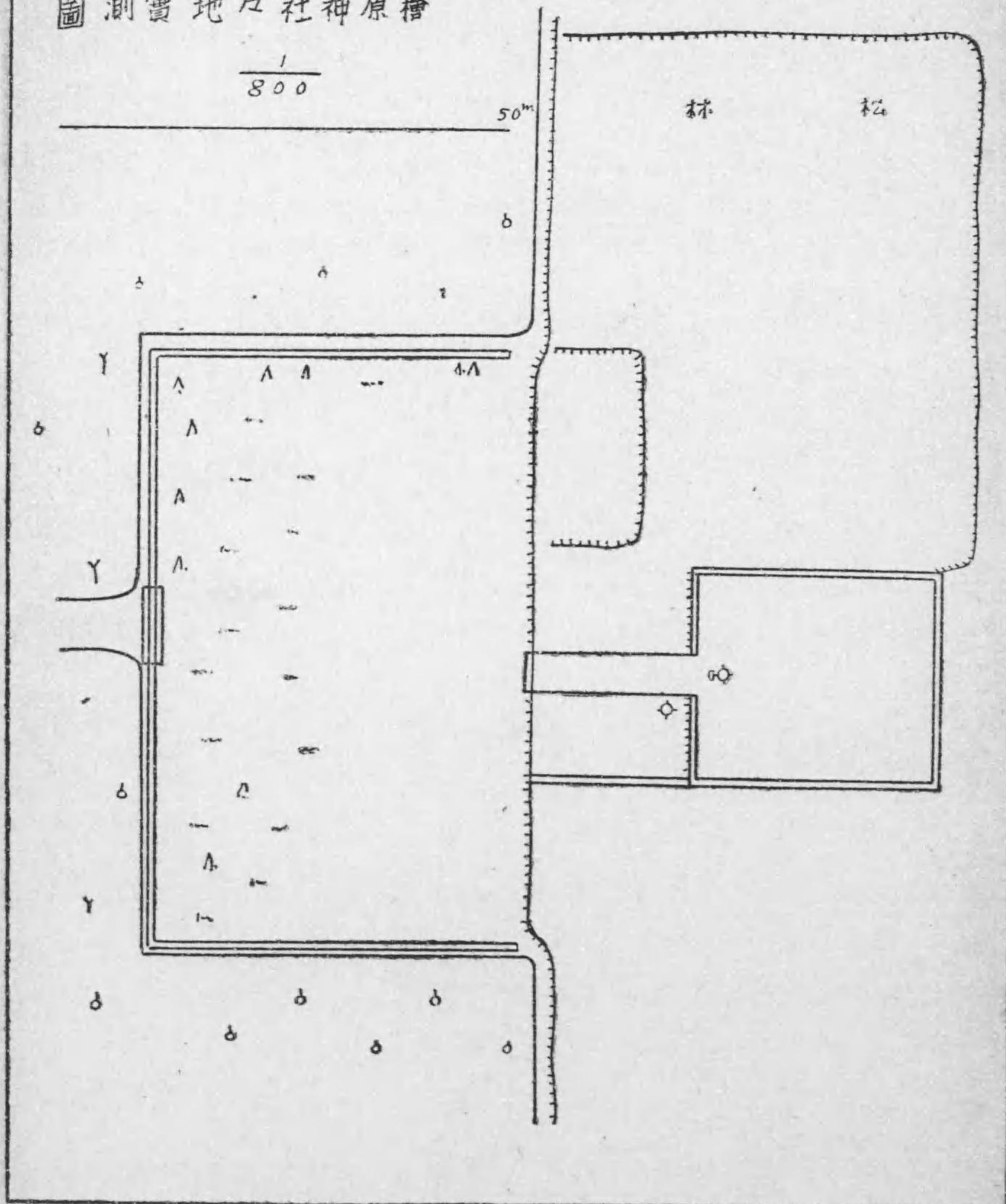
圖二第



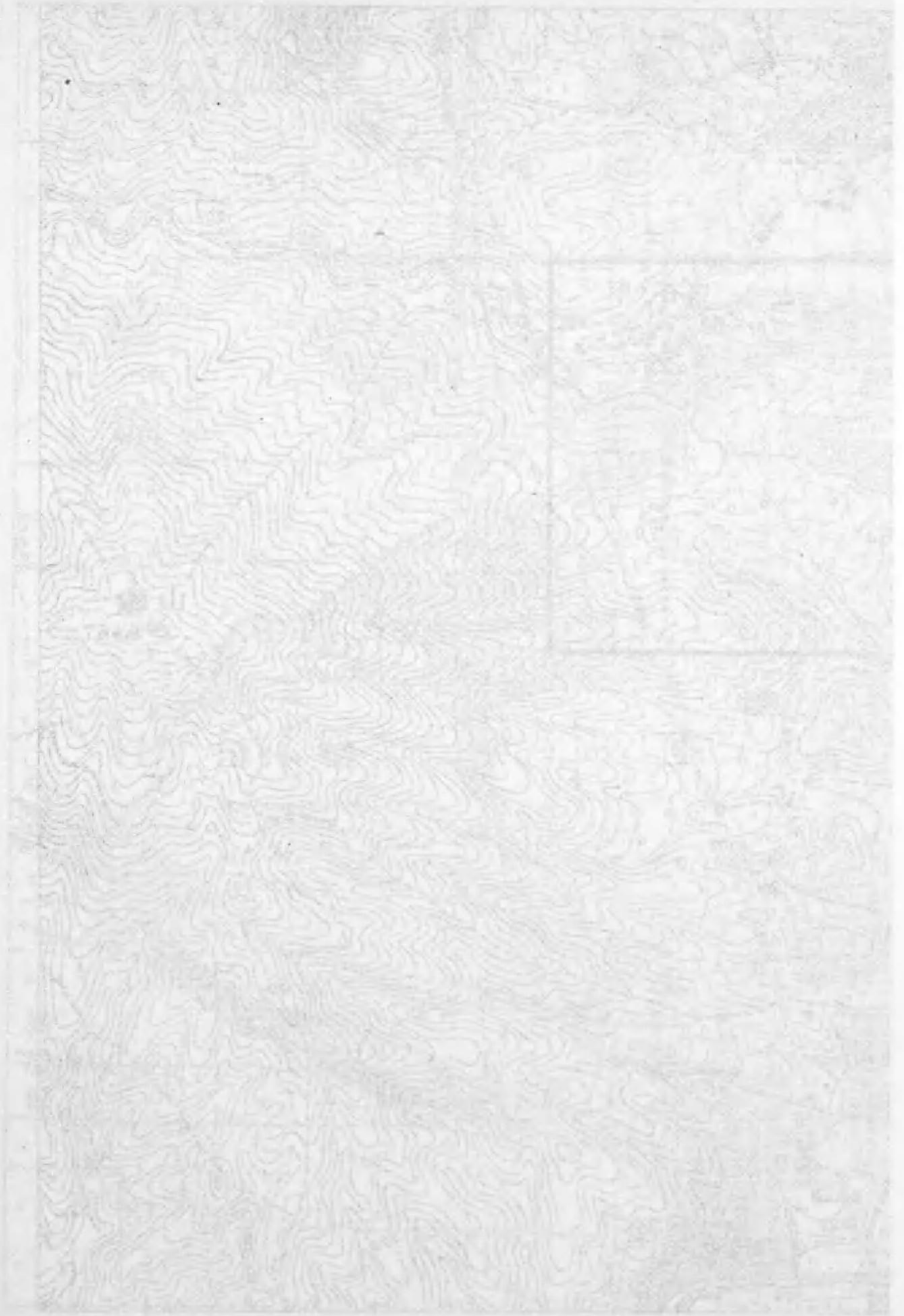


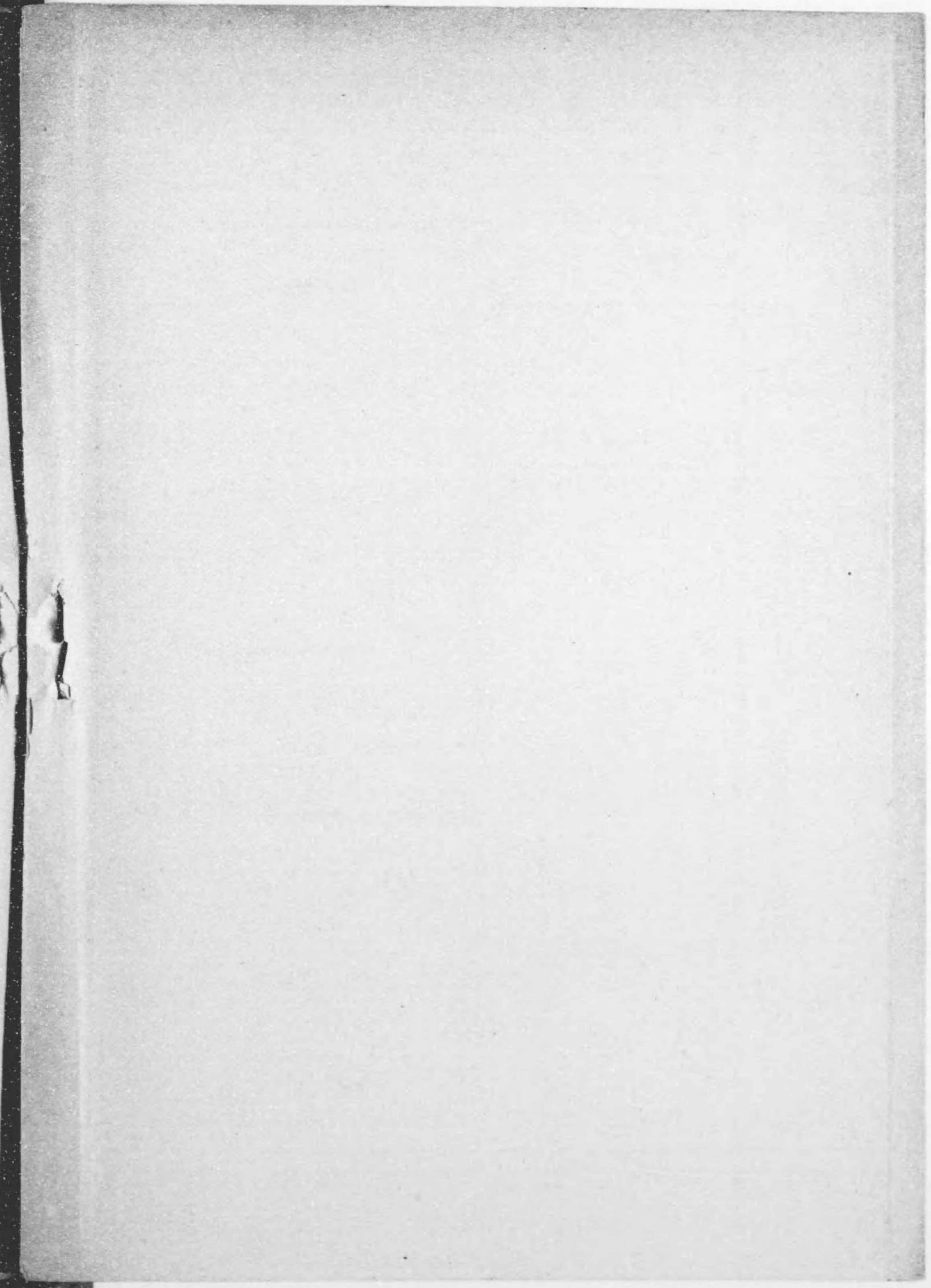
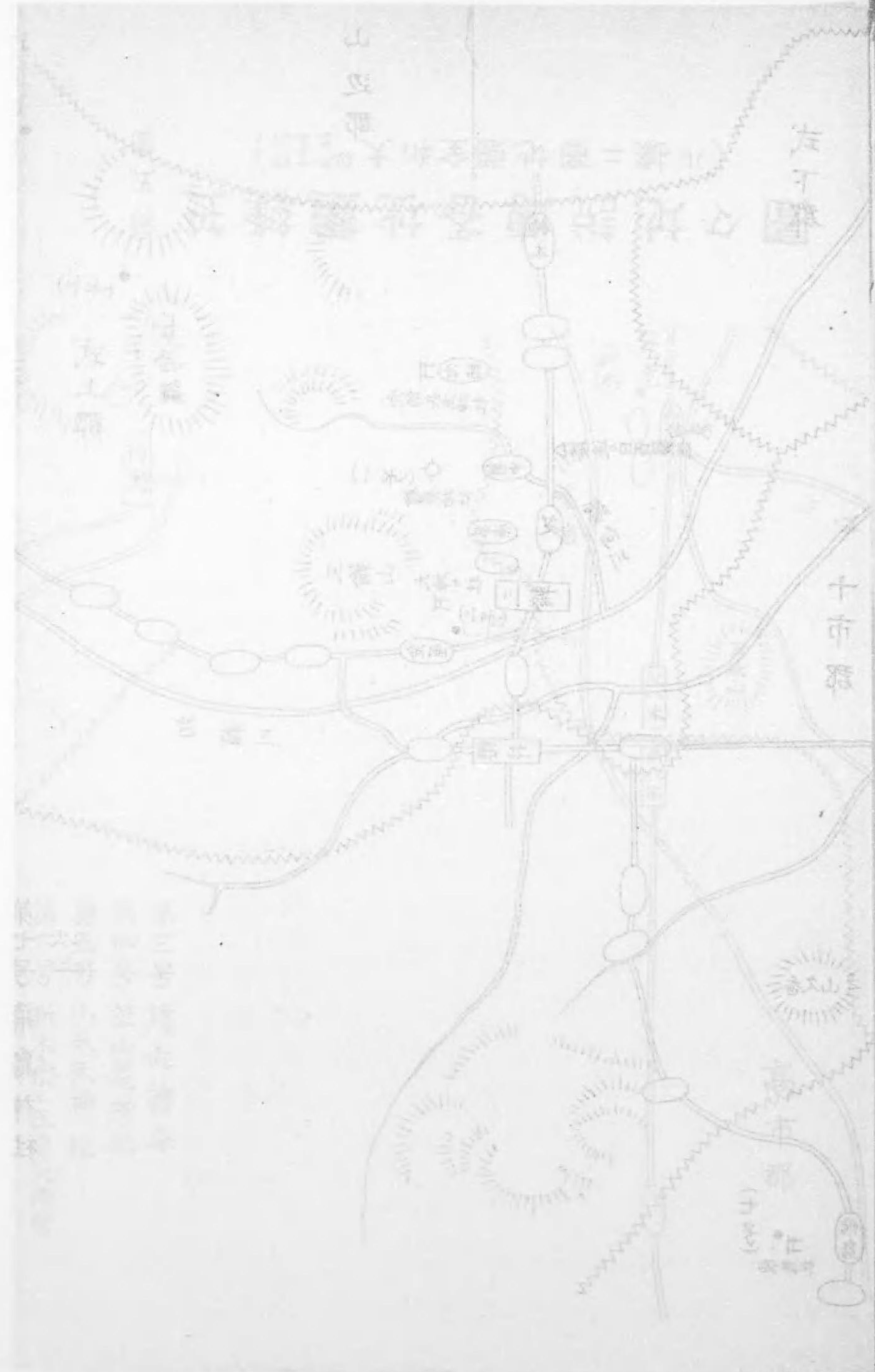
繪原神社地實測圖

$\frac{1}{800}$



第四圖





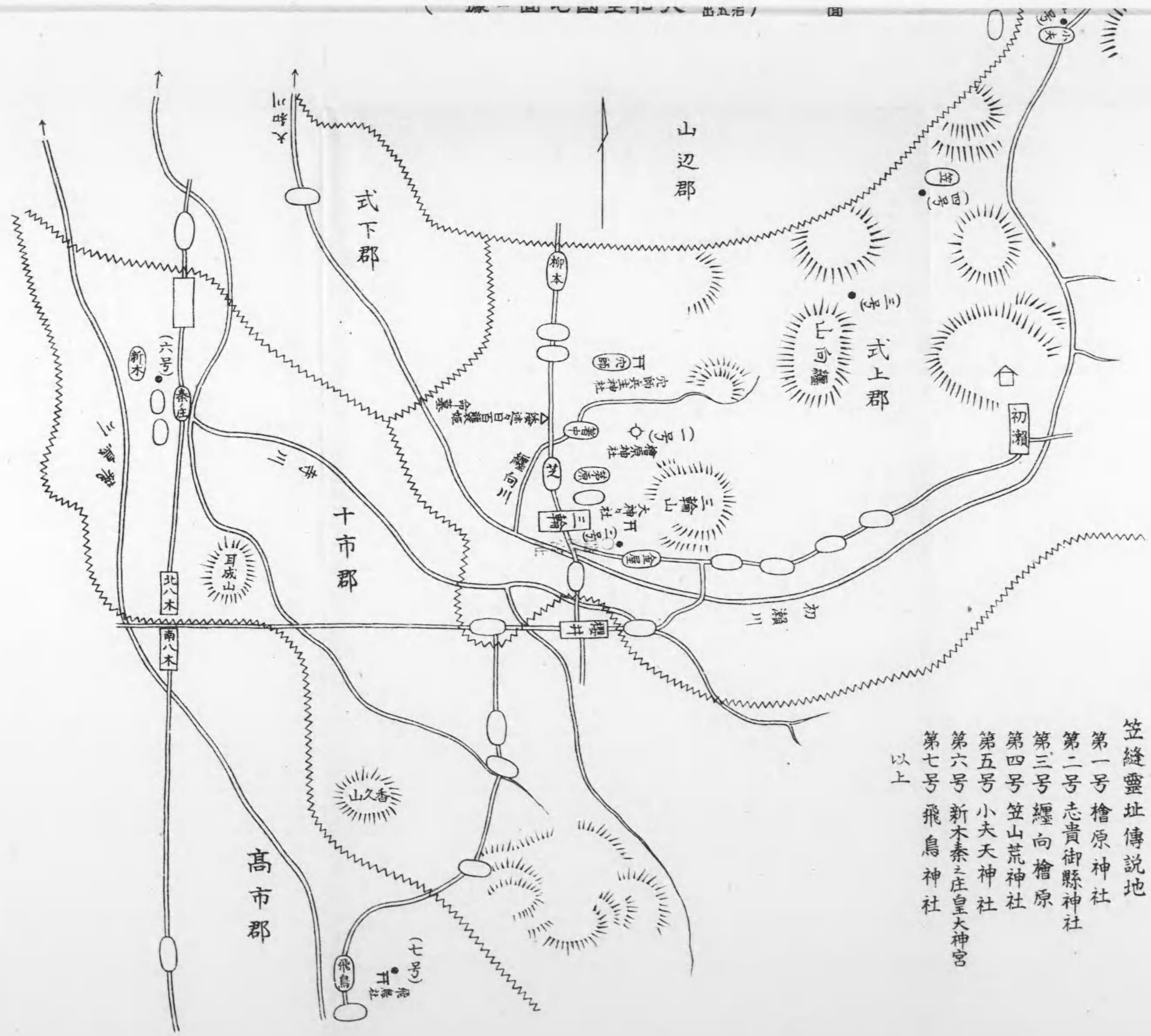
笠縫靈址各傳說地々圖

第五圖

(ル據ニ圖地國全和大^{版年十明}出五治)



- 笠縫靈址傳說地
- 第一号 檜原神社
 - 第二号 志貴御縣神社
 - 第三号 纏向檜原
 - 第四号 笠山荒神社
 - 第五号 小夫天神社
 - 第六号 新木素之庄皇大神
 - 第七号 飛鳥神社
 - 以上



- 笠縫靈址傳説地
- 第一号 檜原神社
 - 第二号 志貴御縣神社
 - 第三号 纏向檜原
 - 第四号 笠山荒神社
 - 第五号 小夫天神社
 - 第六号 新木素之庄皇大神宮
 - 第七号 飛鳥神社
- 以上



第六号 藤木宗正
 第五号 山本大助
 第四号 山本流軒
 第三号 山本流軒
 第二号 山本流軒
 第一号 山本流軒
 正徳堂 謹啓

昭和十四年五月二十五日印刷
 昭和十四年五月三十日發行

倭 笠 縫 邑 顯 彰 會

右代表者 池田喜市郎
奈良縣磯城郡織田村茅原六百二十九番地

印刷者 南元武雄
奈良縣磯城郡三輪町四百四十九番地

印刷所 三輪活文社

392
565

終

2
5